

実習日：平成 28 年度第 I 期 7 月 6 日

実習先：アルメイダ病院

大学名・学年：九州保健福祉大学 5 年

氏名：奥山峻朗

今回大分ゆふみ病院で実習をさせていただきました。大分ゆふみ病院は、庭にたくさん
の木々が茂っており建物内はとても明るくティータイムにはピアノや院長先生の奏でるオ
カリナの音色が響きわたるととても明るい居心地のよさそうな場所でした。自分の中で、い
わゆるホスピスという施設は暗くて話し声もあまり聞こえないところであるという印象が
強く根付いていたので考えを大きく変えることができました。

また、今回の実習において特に印象に残っていることがあります。それは、大分ゆふみ
病院で昔行われた結婚式の DVD を見させていただいた際、堀先生から「医師や看護師のよ
うに直接関与することはできないけれど薬剤の調剤などにより体調が安定すればその分だ
け間接的に患者さんのやりたいことを成し遂げる手伝いができる。そして達成できたこと
を一緒に喜ぶことが大事である」ということを教えていただいたことです。大切なことは、
“ただ身体的苦痛を取り除くことではなく、最期をよりよく迎えられるようにサポートを
することである”ということに身に染みて感じました。

今後大分ゆふみ病院で学んだことや感じたことを忘れずに、患者さんの気持ちに寄り添
える薬剤師をめざして精進していきたいと思えます。

お忙しい中貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。